

## 論文の内容の要旨

### 論文題名

Dubowitz 神経学的発達評価法を用いた極・超低出生体重児の入院中の運動発達と体重変化

### 掲載雑誌名

保健医療学研究科 博士前期課程リハビリテーション領域中枢神経機能学 村重美佳

### 内容要旨

#### 【背景・目的】

新生児期の早産児は在胎週数が少なく低緊張となり、重力に抗することができないために不良肢位を示すことが多い。新生児集中治療室で管理されている期間のリハビリテーション実施に伴う、入院経過中の発達変化を追った研究は少ない。そこで本研究の目的は 1500g 未満の極低出生体重児と 1000g 未満の超低出生体重児を対象に入院期間中の Dubowitz 神経学的発達評価法を用いて、評点変化と体重変化を後方視的に調査し明らかにすることを目的とした。

#### 【対象・方法】

2021 年 2 月から 2022 年 2 月までに当院でリハビリテーションを施行した 1500g 未満の児 22 名を対象とした。Dubowitz 神経学的発達評価法のスコアリングシステムによって 6 カテゴリ（筋緊張、筋緊張のパターン、反射、自発運動、異常所見、反応と行動）を算出し、評価開始時と終了時の合計点と体重の変化を検討した。

#### 【結果】

3 週間の評価期間で Dubowitz の合計点と体重は増加した。Dubowitz の 6 カテゴリの筋緊張、反応と行動、合計点に有意差を認め、スコアの上昇を認めた。しかし他項目ではスコアの改善が有意ではなかった。

#### 【考察・結語】

入院中の Dubowitz の点数と体重は増加を認めた。Dubowitz 合計点は 3 カテゴリにて有意差を認めた。これらは、発達に合わせたポジショニングの調整や発達を促進させるリハビリテーションの介入に効果があったと考えられる。今後さらなる点数改善を図るために、リハビリテーション介入戦略を検討していく必要があると考えられた。